

仙人通信 165 黒岳(1793 m)・破風山(1674 m)

黒岳(御坂黒岳)は河口湖の北側の御坂山塊の最高峰で、山梨100名山の56番であり、1等三角点の山でもある。一方破風山は黒岳の西に延びる尾根にあり、形が日本建築の切妻屋根の横に付いている合掌形の形に似ている事から付けられた名前とある。

今回は、芦川と御坂を結ぶ林道沿いにあるスズラン自生地近くの駐車場から、スズラン峠まで登り、破風山をピストン後に黒岳にそして、日向坂峠を経由するコースとした。駐車場からは、日向坂峠方向に向かい舗装された唐松林の中の林道を進み、20分程でゲートの付いた水ヶ沢林道(破風山西の新道峠に向かう)を更に5分程進むとスズラン峠を示す道標があり、ここから水檜等の林の中を尾根に向かう登山道の始まりだ。尾根沿いに20分進むと、岩の間を水が流れる地図で示す水場である。山を構成する岩であるが大石石英安山岩層(清八・御坂・黒岳・破風の範囲)でデイサイト質の溶岩が主体だそうだ。コースはこの沢でV字状に曲がり、山の北側を尾根に向かい登る。ロープが張られているも崩落があり、足元を確保して進む。北側の釈迦ヶ岳の尖った山頂を梢越しに眺めながら15分程で、スズラン峠である。眼前に河口湖とその上に冠雪した富士山が梢越しに確認できた。ここから破風山へのピストンである。高低差の少ない尾根は、水檜・ブナ・コメツガが主体であり、20分程で山頂である。コメツガの梢の上に、富士山の8号目から上のみが覗いているだけで他は何も見えない。15分で再度スズラン峠に戻り、今度は黒岳に向かう。こちらは急勾配の登りだ。15分程で最初の展望が利くポイントで、甲斐駒から富士山までの展望が楽しめる。峠から丁度30分で黒岳の山頂である。1等三角点にも関わらず、こちらにも周囲に木々が多く、辛うじてアンテナの立つ三つ峠のみが確認できた。南200m程先の展望台からは、正面に富士山が、左手には杓子岳から箱根の山脈が、右手には白く化粧した甲斐駒・鳳凰三山・北岳初め南アルプスだ。その手前には巨摩山塊が、更に手前には御坂山塊の節刀ヶ岳や十二ヶ岳だ。又、眼下には山中湖・河口湖である。風景を堪能して山頂に戻り、今度は釈迦ヶ岳との中間にある日向坂峠に向かう。こちらはブナの林となり、右手に小金沢から御坂まで繋がる山並みが望めた。コースは20cm程のブナの落葉と5cm程の霜柱で足元確認が欠かせない。30分程で上芦川方面を示す道標があり、10分程で先ほどの林道上部に着き、車に戻った3時間半(15000歩)の山旅となりました。黒岳の北側には、神奈川の愛川から三方分山のある芦川まで愛川一藤の木断層があり、落ち葉や落石の多いコースであるが、前述の日向坂峠から御坂の藤の木まで林道を車で進み、断層の状態を確認しながら帰路に着いた。日向坂峠を過ぎると雁坂峠・大菩薩・小金沢から御坂まで青空の下に一望でき、更に林道の崖に、シモバシラ(草)の茎に白い綿状の氷の結晶をも見る事が出来ました。(h29.11.17)

破風山山頂



黒岳山頂



展望台からの富士



シモバシラ

